

**全国連盟理事です**  
**2年間 よろしく**  
**役職は主なもののみ表示**  
**お願いします**



組織部長 大澤辰雄



副理事長 今野善伸



理事長 浦添嘉徳



副理事長 高橋友也



副理事長 石川友好



副理事長 久保典子



理事 久保静児



事務局長 川嶋高志



副理事長 廣木国昭



理事 佐藤久子



理事 赤間弘記



理事 渡邊健治



理事 上野美知代



理事 山本尚徳



理事 石川昌



理事 花村哲也



理事 田上千俊



理事 白井邦徳



新しい会場で行われた第33回総会

**平和な社会で 楽しく安全な登山を**  
**日本勤労者山岳連盟**  
**第33回総会開かれる**

日本勤労者山岳連盟(全国連盟)第33回総会が、2月17日、18日、東京・府中市のコンチネンタルホテルで開催され、37地方連盟から66人の代表者と全国連盟役員41名、来賓5名、取材・傍聴者6名の合計約120名が出席しました。今回の会場は、去年まで使用していた中央区の晴海グランドホテルが工事中で使用できなかったため、初めて使用した会場です。京王線府中駅に近い街中にある、交通の便の良いホテルでした。

来賓には日本山岳・スポーツライミング協会・八木原昭明会長、日本ヒマラヤ協会・山森欣一会長、日本山岳ガイド協会・磯野剛太理事長、日AT-J・内田栄一理事、新日本スポーツ連盟・石川正三理事長が出席、川正三理事長が出席、祝辞をいただきました。

総会の議長には神奈川県の清藤(せいどう)秀子代議員、兵庫県の笹部孝代議員、福岡県連の大塚三紀夫代議員の3名が選出され、議事に入りしました。今回の主要議題は「組織の強化と拡大」重大事故をなくす安全登山教育

訓練を強化する遭難対策活動「リニア問題、防災ヘリコプター有料化問題など、社会に訴える活動」平和と登山を追求し、登山文化を発展させる取り組みの4点でした。討論では、2日間にわたって代議員47人から質問や意見、提案がありました。2日間の討議を経て、採決の結果、全国連盟提案の議案はすべて可決されました。



日本勤労者山岳連盟  
 Japan Workers' Alpine Federation  
 〒162-0814  
 東京都新宿区新小川町5番24号  
 TEL 03(3260)6331(代)  
 FAX 03(3235)4324(代)  
 URL http://www.jwaf.jp

お問い合わせ・情報は  
 フリーダイヤル  
 0120-44-2742  
 (平日10時~18時)  
 E-mail: jwaf@jwaf.jp

**山は一生現役でありたい**  
**新会長 佐々木功さん**  
**プロフィール**



1941年北海道生まれ。1994年に町田グラウス山の会(東京)へ入会。動機は、奥様が楽しんで山に行けるようにと、自分も今までの多忙な業務から決別し、趣味の時間を持とうと決意したこと。

97年に東京登山学校・岩登りコースを受講。当時全国連盟会長の吉尾弘さん、講師の小松猛さんから学

び、翌年からスタッフとなった。00年から東京都連盟理事、06年から東京都連盟教育指導委員長、10年から東京都連盟会長、14年に全国連盟副会長も兼任。思い出に残る山行は、登山学校修了時の記念山行で、吉尾さんたちと行った剣岳(八ツ峰)。今の思いは「最大の宝である仲間を大切にしながら、一生現役を目指して山に向かっていきたい」。



副会長 藤元理津子

**西本会長が退任**  
**お世話になりました**

全国連盟第33回総会では、新しい役員体制も決まりました。また、2002年から連盟の会長をつとめてこられた西本武志さんが退任されました。西本さんは登山時報編集長や東京都連盟会長、1996年から2004年には全国連盟理事長、2004、2005、2010年に副会長、そして2010年からは4期8年にわたって全国連盟会長の座を務め、登山運動の発展につくされました。本当に長いあいだ、お疲れさまでした。ありがとうございました。

また、2002年から副会長を務めてこられた洞井孝雄さんも、今総会で退任されました。かわって、これまで副理事長を務めてきた藤元理津子さんが新副会長となりました。これにともなう、女性委員長は藤元さんから久保典子さんへ



理事 松野千代加



理事 三瓶 健



理事 早川尚武



理事 浅瀬和人



理事 竹本幸造



理事 澤村秋則



理事 加納公子



理事 阿部哲也



理事 川辺淳二



理事 今村正一

標準化委 藤元理津子

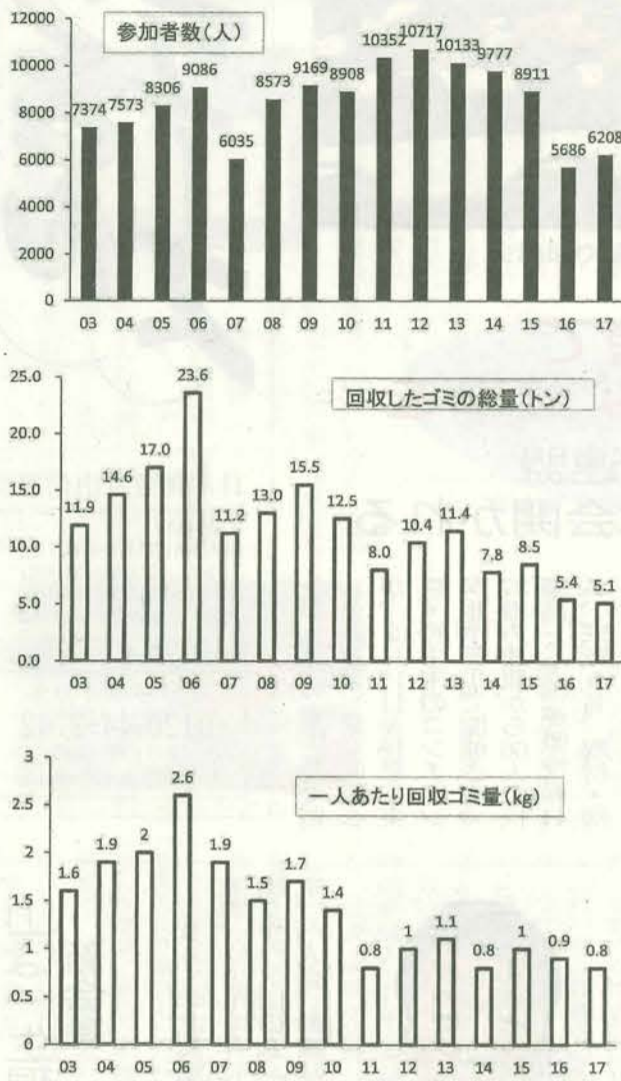
標準化委 藤元理津子

標準化委 藤元理津子

標準化委 藤元理津子

標準化委 藤元理津子

# 年々少なくなるゴミ量 全国クリーンハイク の実績



**今年も全登研集会を11月に愛知県で**

2年前の全登研分科会の様子

00名。記念講演をお願いする小松由佳さんは46歳、K2に日本女性として初めて登頂し、現在はシリア人の主人とシリア難民の今を伝える活動をしています。

分科会は、①登山の組織強化・拡大、次世代育成、②登山のための筋力維持と強化、③安全登山、④若い世代の交流、⑤大規模開発による山岳自然破壊とこのように向き合おうか、⑤つ分もを各自用意。

11月23日(金・祝) 13:00  
~24日(土) 12:00  
愛知県民の森/モリトピア  
参加費 8500円(1泊2食)  
記念講演 小松由佳氏(登山家/写真家)「K2からシリアへ」

2年前に続いて、いま登山が直面する課題を探求する「第17回全国登山研究集会(全登研)」を11月に愛知県で開催します。定員は宿泊1



## 山の捜索をスムーズに ココヘリ募集を継続

### ココヘリの仕組み ホームページより

- 1 登山届けを出す。ココヘリ会員登録も忘れずに。
- 2 もしもの時、コールセンターに連絡。すぐに捜索ヘリが飛び出す。
- 3 ココヘリ会員登録が特価する電波を捜索ヘリがキャッチ。遭難者を見つける。
- 4 遭難者を見つけた後、救助隊に引き継ぐ。

先日、新潟県の新潟山で親子の残念な遭難がありましたが、もしもこの時に、親子がこの機器を持参していたら、と思わずにいられないのが、登山が現在、加入を推進している「ココヘリ」です。

「ココヘリ」は、親機と子機ワンセットの電波による位置探知システムです。山中や町中でも、子機を親機で探し出せます。これを応用して、親機をヘリコプターに積み、上空から遭難者が持参する子機を探知するのがココヘリのシステムです。

子機には一つひとつ、個別の番号が付されていますから、すぐ位置を特定し

て、救助隊が現場に向かうことができます。

このシステムは「オーセニック・ジャパン」社が運用しますが、各地の県警にも導入がすすみ、民間ヘリコプター会社とも契約がされ、年3回まで無料で捜索してくれます。

年会費は3600円。他に入会金が3000円必要ですが、登山会費は半額になり、さらにこの1500円を登山会費が負担するので、登山会費は0円です。

登山会費の申し込み期限は5/31でしたが、これをさらに延長することが決まりました。ぜひ、ご検討ください。申し込みは「オーセニック・ジャパン」社ホームページの登山会費専用ページから。

## 今年も福島に 来てくなんしよ! 登山福島県連 からのお願い

福島県に全国の仲間が、交流を深める「福島交流登山のつどい」が今年も9月に開かれます。昨年は内陸部の喜多方が会場でしたが、今年も福島第一原発に近い相馬市の旅館「なぎさの奏(かなで)夕鶴」で開かれます。

今回は、初日の午後5時~6時に特別講演「福島の

## ROUSAN パートナース 昨年未で閉鎖 新パートナーズへ

山岳会に所属しない個人が誰でも加入できる新しい個人会員制度をめざして、日本労働者山岳連盟が2012年9月に立ち上げた「ROUSAN パートナーズ」は、残念ながら十分な成果をあげることができず、昨年12月末日をもって閉鎖のやむなきに至りました。この間、会員数は最高時でも177名にとどま

り、関連費用は約2千万円をこの事業に投入したことになります。全国会議でかなり多い反対意見があるなか、新制度をどう普及させるのかの見直しと準備が十分なままスタートさせたことは、大きな反省点です。これについては、今後検証委員会が設置されて、掘り下げていく予定です。

残った「ROUSAN パートナーズ」会員は、新たに東京都連盟加盟の通常の山の会としての「新ROUSAN パートナーズ」が立ち上げられ、その会員に移行してまいりました。現在42名が登録されています。

## 2018年9月15(土)~17(月・祝)

福島県相馬市の旅館「なぎさの奏」にて2日でも参加できます

一人あたりの回収量は低下傾向はつきり

私たちが実施したクリーンハイクについて、最近15年間のデータをひもといてみました。ゴミ量は2006年、参加者数では2001年がそれぞれピークです。参加者一人あたりのゴミ回収量を計算してみると、こちらも2006年までは増加していましたが、その後は右肩下がり傾向が見られます。私たちの取り組みが成果をあげ、山のゴミは少なくなっています。

## リニア新幹線 トンネル反対署名 1万筆を超える

一方、工事を請け負ったセネコン4社の談合が摘発され、リニア新幹線通過予定の各地からも、さまざまな問題点が噴出し、学習会や集会が行われています。

こうした情勢を受けて、登山会連盟は皆さんから託された署名簿を手に、国会要請を実施する予定です。さらに、もうひとつ、



山岳会に所属しない個人が誰でも加入できる新しい個人会員制度をめざして、日本労働者山岳連盟が2012年9月に立ち上げた「ROUSAN パートナーズ」は、残念ながら十分な成果をあげることができず、昨年12月末日をもって閉鎖のやむなきに至りました。この間、会員数は最高時でも177名にとどま



2015年平和行進 (岡山県)

# 平和の旗を高く掲げろ

## 労山の取り組み

### 労山のルーツをたどるシリーズ第8回

#### 登山には

#### 平和な社会が欠かさない

総会で採択された決議文も、冒頭の「今日の社会情勢を見ると、『平和と登山』の問題が非常に重要な課題となってきた」との文言から始まっています。

いま私たちは、登山に平和は不可欠であり、登山者がそれを希求するのは当然だと考えています。

○ ○ ○ ○ ○

日本勤労者山岳連盟(全国連盟)は、今年2月に開催した全国総会で「平和な社会で、楽しく安全な登山を営んでいくこと」をメインスローガンに掲げました。

1978年に制定された「趣意書」でも、この問題は大きな柱として掲げられていません。

### 1986年より毎年平和行進に参加

「登山と平和」の問題が労働者の間で初めて大きく議論されたのは、1980年に埼玉県で開催された第9代に入ってからでした。

1982年1月に開かれた第15回全国総会では、採択された「総会宣言」に初めて「平和な社会でこそスポーツ・文化の発展が保障される」との文言が取り入れられました。

以降に開かれた全国総会では、「総会宣言」に必ず「平和」の問題が取り入れられています。(現在の全国総会では「総



2015年平和行進 (兵庫県)

平和行進への参加は、翌1986年から労山内で全国的に取り組みされました。1991年には、東京・世田谷山友会の錦織(にしきお)昌博さんが労山の推せんをうけて東京から広島まで86日間の行進を歩きとおしました。錦織さんは、訪れた各地で労山会員の歓迎を受けました。



### 「ハイキングA・B・C」を一部改訂 「ハイキングセカンド」は第4版発行

日本勤労者山岳連盟が発行する人気のテキスト「ハイキングA・B・C」と「ハイキングセカンド」が底をついたのを機に、「ハイキングA・B・C」(現在、第4版)は内容を一新して「現行の『第4版』とした5年前から一部改訂版」に、また「ハイキングセカンド・ステップ」は1998年9月に初版が発行された。



「第4版」として近々に発行します。ここに掲載したイラストは、登山時報の4コマ漫画「フッフウ ハアハア」でおなじみの村松孝一さん(相馬山歩会)に描いていただいた、新しい「セカンド・ステップ」の表紙絵です。

### 全国総会で 新特別基金を改称

登山中にもしも事故が起きた時、その補償をする労働者の助け合い制度「労働者山岳連盟の助け合い制度」が変更されました。それが決められたのは、今年2月の労山全国総会です。決議(2月18日)を受けて、さ

#### 元々は遭対基金

「労働者山岳連盟」は、もと「労働者山岳遭難対策基金」(略称: 遭対基金)の名で1974年に創設されました。当時は登山に

### これからは労山基金と呼んでください

「新特別基金」は、もと「労働者山岳遭難対策基金」(略称: 遭対基金)に改定された。期間を1年間と限定して、その間に基金の保険業法適用除外を求めていくこととした。

#### 保険業法が改定されて

008年2月の第28回全国総会で基金の名称を「労働者山岳遭難対策基金」に変更し、期間を1年間と限定して、その間に基金の保険業法適用除外を求めていくこととした。

#### 新たな名称へ

「新特別基金」の名で落ち着いたのですが、この名称では、一般会員に基金の性格がよくわかりません。このため、時間をかけて議論し、今回の新名称誕生となったのです。



初の平和行進を伝える 登山時報1986年6月号

### 労山基金制度の歴史

- 1974年 労山遭対基金制度発足
- 2005年 保険業法の一部が改定される
- 2008年4月 改定保険業法全面適用 「遭対基金制度」を1年間限定で「労山特別基金制度」に変更
- 2009年4月 「労山新特別基金制度」発足
- 2018年2月 制度の名称を「労働者山岳遭難対策基金」に変更

# ザックに付けて 会や労山を アピールしよう



静岡県連では昨年度、加盟する16の会・クラブのネット・プラットフォーム作成に取り組んだ。山で出会う人に会・クラブ、労山をアピールすることがおねがひだ。これをつけて登った日向山では茨城の労山会員に声をかけられ交流するなど、山で労山会員とわかれば親交を深め

るきっかけにもなる。全国にもこの取り組みが広がればと思います。

後藤隆徳  
静岡県連 前組織部長

\* \* \*

こんな投書が、「登山時報」2018年5月号に寄せられました。お互いに「労山会員であることがわか



山で見かけたら、声をかけてね



ザックに付けたところ

れば、思わぬ人たちと知りあいにたのしみ、周囲の登山者にも労山の存在をアピールすることができて、会員拡大に役立つかもしれません。

全国の会が、まねしてやってみませんか。

(編集部)

男性会員をアゴで使っているの、第1回女性と登山全国集会所で、田部井淳子さんが、女性だけのパーティーでエベレスト登頂をし、時の人になりました。寿退社が当たり前の時代に、既婚の女性が子どもを夫に預けての登山は、山を続けていきたい女性の憧れと希望でした。

男性の会員をアゴで使っているの、第1回女性と登山全国集会所で、田部井淳子さんが、女性だけのパーティーでエベレスト登頂をし、時の人になりました。寿退社が当たり前の時代に、既婚の女性が子どもを夫に預けての登山は、山を続けていきたい女性の憧れと希望でした。



加納公子さん

「女性と登山全国集会」は、1976年に第1回集会所が兵庫県で開催され、青森から鹿児島まで417人(内男性94人)が集まりました。

その背景には、各地で女性会員が増え、登山技術を意欲的に学ぶ女性も増えたことがあります。

しかし、その当時の世間では、女性がお茶やお花などの花嫁準備で遅くなるとの報告を掲載する

## 切り拓いてきた 女性が登山 できる環境 40年の歩みを語る

女性と登山  
全国集会

も微笑ましく見てくれますが、女性が山に登り、ハイキング程度のザックならまあよいとしても、大きなザックを担いで街を歩くのや、会議で遅くなるのは女性らしくない行為でした。

女性の登山に  
周囲の冷やかな目

大きなザックを担いで、体裁が悪い、駅のロッカーに荷物を預けての出社や、家の近くではないところで着替えて山に登る会員もいました。私は、全然気にせず会社のロッカー前にザックを置き、仕事が終われば山の服に着替えて泊まりの山行に行っていました。が、十数年して実家で買った物に「あ、あ、大きなリュック担いだお姉ちゃん」と言われ、目立っていたのだと気づきました。

会社では、「男性と同じテントに泊まるのはよくないので、テント泊はやめな



基調報告する藤元・前女性委員長

男性の会員をアゴで使っているの、第1回女性と登山全国集会所で、田部井淳子さんが、女性だけのパーティーでエベレスト登頂をし、時の人になりました。寿退社が当たり前の時代に、既婚の女性が子どもを夫に預けての登山は、山を続けていきたい女性の憧れと希望でした。

男性の会員をアゴで使っているの、第1回女性と登山全国集会所で、田部井淳子さんが、女性だけのパーティーでエベレスト登頂をし、時の人になりました。寿退社が当たり前の時代に、既婚の女性が子どもを夫に預けての登山は、山を続けていきたい女性の憧れと希望でした。

男性の会員をアゴで使っているの、第1回女性と登山全国集会所で、田部井淳子さんが、女性だけのパーティーでエベレスト登頂をし、時の人になりました。寿退社が当たり前の時代に、既婚の女性が子どもを夫に預けての登山は、山を続けていきたい女性の憧れと希望でした。

## 変化した問題 新たな視点で解決を

今回のもう一つのテーマは「新しい波を女性たちが」です。

女性のスポーツ参加が時代とともにあつたように、登山の世界でも女性の山への参加はこの40年の中で大きく変化しています。

社会においても、女性の立場が大きく変化してきました。男女雇用機会均等法により、職域が広がり多様な分野で活躍も可能になりました。しかし、役員や管理職に占める女性比率は少なく、非正規雇用や低賃金で長時間労働が男女ともに増え、過労死が社会問題になっていきました。山に行くにも、会の会議に参加するにも、自分のための時間を確保するのは男女とも以前

男性の会員をアゴで使っているの、第1回女性と登山全国集会所で、田部井淳子さんが、女性だけのパーティーでエベレスト登頂をし、時の人になりました。寿退社が当たり前の時代に、既婚の女性が子どもを夫に預けての登山は、山を続けていきたい女性の憧れと希望でした。

2018年3月号

いいのが撮れました  
自慢の一枚

vol.11

松下麻美

2018年4月号

いいのが撮れました  
自慢の一枚

vol.12

上田明彦

2018年5月号

いいのが撮れました  
自慢の一枚

vol.13

稲石園子

2018年6月号

いいのが撮れました  
自慢の一枚

vol.14

登船せつ子

## 「登山時報」にあなたの写真を 自慢の1枚

登山の機関誌「登山時報」は、登山者から寄せられた写真や記事を掲載し、紹介する人気があります。あなたも、どこか山でいい写真が撮れたら、投稿してみませんか。

投稿のしかた  
写真データに撮影日時、撮影者名、場所、1800字以内の説明文を添えて登山時報・投稿写真係までメール

tozanjoho@iwaf.jp  
〒162-0081 東京都新宿区新小川町5-24日